

財団法人 日本中国国際教育交流協会

# 会報

平成19年(2007).2.15

(財)日本中国国際教育交流協会

Tel:03-3222-4190 Fax:03-3222-4199

Email:ajciee@rythm.ocn.ne.jp

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-3-9 第2太陽ビル301

## 「共同のプロジェクトを進めたい」

(宋慶齡基金会 胡啓立主席)

### 協会常務理事らが北京で会談

財団設立15周年記念行事、第13次訪中団の成功を受けて、かねてより懸案であった更なる財団の事業展開のため、山中正和常務理事、黒田文男常務理事、初岡昌一郎理事の3名は2006年12月3日～6日まで、北京を訪問しました。訪問先は宋慶齡基金会、中国教育国際交流協会。また、一行は、労働関係学院、中国総工会職工対外交流センターを表敬訪問しました。

12月4日、宋慶齡基金会を訪問。会談には、叱利群副主席、呉存瑜連絡部部長が出席しました。基金側からは、宋慶齡基金会は◎1982年、鄧小平の呼びかけで設立。主席は歴代、国家のリーダーが就任、◎設立の目的は①世界平和への寄与、②中国・台湾の交流、③学費補助、学校支援、教師援助・養成、女子援助など青少年の福祉のための活動を行っていることなどの説明を受けました。

協会側からは、協会の概要説明のあと、いくつかの質問がなされました。○協同プロジェクトは、基金会資金に編入するというのではなく、双方で合意した特定のプロジェクトで行うことは可能か。○現地調査、視察・審査、場所の希望などの受け入れ態勢可否は。○基金会の予算の仕組み。これらについて、基金側は、管理費は全て政府負担。基金は全て事業に充てていると説明されました。また、(協会の要望する)いずれの方策にも対応できる旨の説明がありました。

続いて、胡啓立主席主催歓迎昼食会が開かれ、席上、主席は「協会の要望するいかなる形でも協力してやっていきたい。まず、北京近郊の学校訪問などから始めては。」と述べました。協会側は「小さく産んで大きく育てる」を、今日のまじめにしましよと答え、宴を終了しました。



左から初岡理事、胡啓立主席、山中常務理事、黒田常務理事



宋慶齡画を背に叱副主席と会談

4日午後、中国教育国際交流協会訪問し、林佐平常務理事、李春生部長と会談しました。

まず協会側から、今後の交流は、○財政面も含め率直に話し合い、双方にとって必要な、より果実のある交流をしたい。○今までの費用負担とは違う形態もありうること、と述べました。また、政策面の研究では、○文科省や議員との研修会・交流もどうか、と提案されました。

林常務理事は、◎同感する。◎NGO法人になったので、政府からの援助は増えず、今までの財政状況とは違う。◎1月の遼寧省体育訪中団の学校訪問と高体連のアレンジを要望する。会談は友好的な雰囲気の中にも、率直なやり取りが交わされ、両協会は今後の一層の連携を確認しました。

12月5日は、中華全国総工会(日本の連合にあたる)が設立している労働関係学院を参観訪問しました。労働関係学院は労働組合幹部養成の学校として設立され、2年前からは4年制の一般大学の内容を整えているとのことでした。学院教授4名と懇談。図書館、大学経営のホテル、「中日労働者友好の碑」など見学し、労働学院院長(学長)主催昼食会に出席し、交流を深めました。



中日労働者友好の碑

## 体育代表団来日

高体連・駒場高校・日野学園を訪問



高体連事務局前で体育代表団と高体連事務局の皆さん

中国教育国際交流協会派遣の遼寧省鞍山市の教育局体育所長 白洪剛団長をはじめとする体育代表団 12 名が、1 月 13 日から 26 日まで、学校体育施設、体育関係者との懇談を目的として訪日しました。訪日団の希望に沿って、協会は高体連・都立駒場高校（川田晴子校長）・品川区立小中一貫校日野学園（菅谷正美校長）の参観をアレンジし、理事長、山中常務理事、吉田一徳評議員らが随行しました。

高体連（全国高等学校体育連盟）では、梅村和伸専務理事から、保健体育科目の説明やインターハイをはじめとする体育教育について説明を受け、団員からは多くの質問がなされました。また、高体連から記念品、団からも記念の石像が贈られました。

日本で初めて高等学校に体育科が設けられた伝統ある都立駒場高校では、主として柔道、剣道など武道の授業を参観しました。また、学生食堂や茶道室にも質問がありました。小中一貫校日野学園の訪問は、昨年 5 月、中国教育国際交流協会（林佐平団長）に続き二度目の訪問となりました。懇談会では、日本側教師からも中国の教育についての質問が活発になされるなど、和気藹々の交歓会となりました。

高体連及び両校とも忙しい時期にもかかわらず、協会の要望に沿って訪日団を歓迎していただいたことに心から感謝を申し上げます。体育代表団はこの他、国土館大学、桜美林大学、琵琶湖体育大学、静岡県教育委員会などを訪問し、無事帰路につきました。後日、中国教育国際交流協会から受入を感謝する旨の連絡がありました。

**訃報** 当協会上本雅之評議員は、かねてより

ご療養中のところ、去る 2 月 7 日永眠されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

# 安東自由大学へ

## ・・・日韓教育交流へ第一歩

協会では、懸案の日韓教育交流の実現に向けて準備を進めてきましたが、このたび教育文化・一般教養のセミナーを内容とする安東自由大学（仮称）が設立される運びとなりましたので、協会は協賛という形でこの事業に参加します。

安東自由大学はこの夏（8 月下旬を予定）韓国慶尚北道安東市において開催されるスタディーツアーです。すでに、今年 1 月 22 日から 27 日まで先遣団（山中常務理事参加）は安東市を訪れ、安東市長の歓迎を受け、受け入れ態勢や講座などについて要綱を作成中です。

協会ではこの安東自由大学に派遣団を組織し、韓国の教育・歴史文化の学習などへの参加の検討を進めています。内容が確定次第、理事・評議員の皆様にはご連絡をいたしますが、6 泊 7 日（安東 4 泊）で、学校訪問や教育交流会、古民家体験ツアーなどを計画中です。ご期待ください。



精神文化の地として教育を重んずる安東市の書院の一つ

## 教育国際交流活動に助成

協会では、財団設立 15 周年を記念して、教職員の行っている教育国際交流について、支援し、助成することになりました。教職員団体（原則として県単位）は、2006 年度の行った教育国際交流活動に関して、協会の指定した報告書を提出すれば、5 万円の助成が受けられます。また協会が設置した審査委員会によって審査され、奨励すべき活動と認められたものについては、奨励金として 10 万円が贈られます。締め切りは、3 月 31 日です。

理事長は次の各氏に審査委員を委嘱しました。

審査委員（敬称略・順不同）

初岡昌一郎（姫路独協大学名誉教授）

吉峯 啓晴（弁護士）

中嶋 滋（ILO 理事）

松島 裕子（日本教職員組合中央執行委員）

山中 正和（協会常務理事・事務局）